

< 口腔の役割 >

はたらくくるま ー献血バス その2ー ～設備・機能編～

毎年夏は、長期休暇などにより学校や企業、団体などから献血へ協力が得にくくなります。一方で、輸血用血液製剤は長期保存ができないため、年間を通じて安定的に確保することが大切です。そのため、桐生厚生総合病院では毎年7月にも献血を実施しています。群馬県内の献血は高崎駅、前橋、太田の3カ所の献血ルームの他、綿密な運行スケジュールに沿って稼働する献血バス（移動採血車）で行われます。

そこで今回、今春3月23日に当院に群馬県赤十字血液センターから配車された大型献血バス“おおとね1号”を紹介します。



移動採血車「おおとね1号」



天候や用途に合わせ、ストライプの自動天幕(テント)を展開します

献血バス“おおとね1号”を前から見るとトラックそのもの。いすゞ製大型トラック「ギガ」をベースに改造されているようです。側面には献血キャラクター「チッチ」といっしょにバスの寄贈元「宝くじ協会」のキャラクター「クーちゃん」が描かれています。



車高調整機能で乗り降りしやすく

まず献血者が乗り降りしやすいように車高を低く調整し、車体が揺れぬように油圧ジャッキで地面にしっかりと固定されます。

献血バスにはメインエンジンの他、電力を供給するための発電機、そして快適な車内環境を維持するための冷房用エンジンが備わります。



自動定電圧調整器で安定した電力を供給します



新型コロナウイルス感染予防のため、献血者とスタッフの間にはビニールカーテンを設置、換気装置で室内の空気を入れ替えています

標準的な献血バスでは 4 台の採血ベッドが用意されています。献血者が快適に献血できるよう頭部の位置を変えることができます。その他、通路の窓際にはバスが移動中、医師や採血職員が座るためのシートベルト付き折り畳みシートが設置されています。

献血バスは限られた空間を最大限に活用し、献血者が安全・快適に採血ができるようにさまざまな工夫が施されています。最新の大型トラックと最新の医療技術を融合させたこの日本の“ものづくり”の知恵と発想、きっと献血中に実感できるはずです。

(協力：日本赤十字社 群馬県赤十字血液センター 献血推進課)

☆新型コロナウイルスワクチンの接種を受けられた方へ

“献血は、新型コロナウイルスワクチンの接種から 48 時間が経過した後にお願いします”

詳しくは日本赤十字社ホームページをご覧ください

https://www.jrc.or.jp/donation/about/refrain/detail_08/



【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

